



地域研究集会

第8回 海と漁業と生態系に関する研究集会
小型浮魚類の資源量変動機構に関する新たな理解と海洋環境の変化がもたらす新たな課題

日時：2025年2月26日（水）9:30～17:00

場所：水産研究・教育機構 横浜庁舎（オンライン併用）

コンビーナー：上村泰洋・伊藤大樹・古市 生・由上龍嗣（水産機構資源研）・尾崎真澄（千葉水総研）

共催：水産研究・教育機構 水産資源研究所

問い合わせ先：kamimura_yasuhiro07@fra.go.jp（上村）

参加登録：<https://forms.office.com/r/zqnxBRCBgk>



1. 挨拶： 木村伸吾（水産海洋学会 会長）
9:30～9:35
2. 趣旨説明： 上村泰洋（水産機構資源研）
9:35～9:50
3. 話題提供：※1 課題 30 分＋質疑応答 10 分
 - (1) 小型浮魚類の資源変動メカニズムと種内・種間相互作用の新たな理解
座長：上村泰洋（水産機構資源研）
 - ① 近年の太平洋海域におけるマサバ・マイワシの資源・生態・加入機構の変化
古市 生・由上龍嗣・上村泰洋（水産機構資源研）
9:50～10:30
 - ② 黒潮続流・移行域における動物プランクトン群集の長期変動
宮本洋臣（水産機構資源研）
10:30～11:10
 - ③ 食性から見るマサバ・マイワシ・カタクチイワシの種間関係
岡崎雄二・日高清隆・田所和明（水産機構資源研）
11:10～11:50
 - 昼休み -
11:50～12:50
- 座長：由上龍嗣（水産機構資源研）
 - ④ 飼育実験から紐解くマサバ・マイワシ・カタクチイワシの繁殖戦略
米田道夫・中村政裕・入路光雄（水産機構技術研）
12:50～13:30

(2) 太平洋海域における小型浮魚類をとりまく海洋環境の変化と課題

⑤ 黒潮・親潮がもたらすマサバ・マイワシ資源量変動に関する新たな課題

伊藤大樹・上村泰洋・由上龍嗣・渡井幹雄（水産機構資源研）

13:30～14:10

- 休憩 -

14:10～14:25

座長：古市 生（水産機構資源研）

⑥ 近年の海洋環境変化と漁業の実態～太平洋北部海域のさば類・いわし類漁業等の状況～

増田義男・長岡生真（宮城県水技セ）・辻 康平・原田貴大・尾崎真澄（千葉水総研セ）・

松井俊幸・荒井将人（茨城水試）・生方宏樹（道総研釧路水試）・時岡 駿（水産機構資源研）

14:25～15:05

⑦ 魚鱗化石記録からみたマイワシ資源の長期変動の特徴

加 三代宣（愛媛大）

15:05～15:45

- 休憩 -

15:45～16:00

4. 総合討論

進行：上村泰洋（水産機構資源研）

(1) 全体質疑

16:00～16:20

(2) パネルディスカッション

パネリスト：山口凌平（JAMSTEC）・尾崎真澄（千葉水総研セ）・由上龍嗣（水産機構資源研）

16:20～17:00

開催趣旨：北西太平洋海域における主要水産資源であるマサバ・マイワシ・カタクチイワシなどの小型浮魚類は、2010年代に入り資源量変動期を迎えた。太平洋系群のマサバ・マイワシの資源量が大きく増加する一方、カタクチイワシの資源量は低迷し、それに応じて漁業の主要漁獲物も様変わりした。この期間、小型浮魚類の生活史全体をカバーしたフィールド調査および漁業情報の長期データの利用と飼育環境下における小型浮魚類の再生産実験系の確立により、各魚種の生活史を通じた生態的变化、種内・種間相互作用、資源量変動メカニズムに関する理解は深まっている。一方で、小型浮魚類をとりまく北西太平洋の海洋環境は、想定を超えて劇的に変化しており、黒潮続流の北偏や親潮勢力の弱下が各種の生態や漁業に多大な影響を及ぼしていると考えられている。本研究集会では、①2010年代以降の資源変動期の研究によって明らかとなった小型浮魚類の資源変動機構に関する新たな知見や仮説を整理して情報を共有し、②短期（十数年レベル）、長期（数百年レベル）の海洋環境の変化と小型浮魚類の資源変動の関係および近年の海洋環境の変化によって生じている魚種の生態的な変化および漁況を俯瞰することで、漁業への影響を考える一助にする。これらを通じて、資源量変動メカニズムに根差した資源評価・管理の実現のために必要な課題を議論するとともに、我々が近年直面している海一魚一漁業の変化によって抱えている問題の解決に肝要な科学的・社会的な取り組みとは何かを考える機会とする。